

## 第 2 学 年 音 楽 科 学 習 指 導 計 画

2 年 1 組 指 導 者 川 原 真 矢

2 7 M ( 9 時 間 )    が 本 時

学 習 活 動	子 ど も の 意 識
<b>第 1 次 「だ が っ き パー ティー」 を 鑑 賞 す る</b> <span style="float: right;"><b>3 M ( 1 時 間 )</b></span>	
<b>学 習 内 容</b> ・ 打 楽 器 の 音 色 ( 知 ・ 技 ) ・ 曲 想 と 音 楽 の 構 造 と の か か わ り ( 知 ・ 技 ) ・ 曲 や 演 奏 の 楽 し さ ( 思 ) ・ 身 の 回 り の 音 へ の 親 し み ( 態 )	
<input type="checkbox"/> 打 楽 器 の 音 色 、 組 み 合 わ せ や 音 の 重 な り に よ る 音 色 の 違 い を 聴 き 取 る ( 3 M )	・ 今日 は 鑑 賞 を す る の だ ね 。 ど ん な 曲 か 楽 し み だ な 。 ト ラ イ ア ン グ ル や 小 太 鼓 の 音 が し た ね 。 も う 一 度 聴 き た い な 。 一 度 に 2 つ 以 上 の 楽 器 の 音 が し て 、 よ く 分 か ら な い よ 。 先 生 が 、 こ の 曲 に 使 わ れ て い る 楽 器 を 見 せ て く れ た よ 。 音 の 大 き さ や 組 み 合 わ せ た 楽 器 が 違 う と 、 音 の 感 じ が 違 う ね 。 音 が 重 な る と 、 賑 や か に な る よ 。 楽 器 の 組 み 合 わ せ を 変 え た り 音 を 重 ね た り す る と 、 い ろ い ろ な 音 が 出 せ て 面 白 い ね 。 僕 た ち も や っ て み た い な 。
<b>第 2 次 身 近 な 打 楽 器 を 使 っ た 音 楽 づ く り を す る</b> <span style="float: right;"><b>6 M ( 2 時 間 )</b></span>	
<b>学 習 内 容</b> ・ 打 楽 器 の 音 色 と 奏 法 ( 知 ・ 技 ) ・ 呼 び か け と こ た え ( 知 ・ 技 ) ・ 音 楽 づ く り の 発 想 ( 思 ) ・ 身 の 回 り の 音 へ の 親 し み ( 態 )	
<input type="checkbox"/> 身 近 な 打 楽 器 を 使 っ た 音 楽 づ く り を す る ( 3 M × 2 )	・ 「だ が っ き パー ティー」 に 出 て き た 楽 器 を 使 っ て 、 4 小 節 の 音 楽 を つ く る の だ ね 。 先 生 が 用 意 し た リ ズ ム で も 、 自 分 で 考 え た リ ズ ム で も よ い の だ っ て 。 楽 し そ う 。 い ろ い ろ な 楽 器 の 音 を 出 し て み た い な 。 タ ン ブ リ ン や ト ラ イ ア ン グ ル を マ レ ッ ト で 叩 い て も よ い の だ っ て 。 ト ラ イ ア ン グ ル を マ レ ッ ト で 叩 く と お 寺 の 鐘 み た い だ ね 。 よ し 、 ど ん な リ ズ ム に し よ う か な 。 A さ ん は 、 二 人 組 で や っ て い る ね 。 2 つ の 楽 器 で 楽 し そ う だ な 。 B く ん 、 僕 た ち も 一 緒 に や ろ う よ 。 み ん な は 、 ど ん な 音 楽 を つ く っ た の か な 。 ま ね っ こ を し た り 交 互 に 演 奏 し た り す る 人 も い る ね 。 「呼 び か け と こ た え」 と 言 う の だ ね 。 2 つ 以 上 の 楽 器 を 一 緒 に 鳴 ら し て い る 人 た ち も い る ね 。 楽 器 を 増 や し て い く こ と も で き る の か 。 面 白 い な 。 も っ と 楽 器 を 使 っ て み た い よ 。
<b>第 3 次 曲 想 を 感 じ 取 っ て 表 現 を 工 夫 す る</b> <span style="float: right;"><b>18 M ( 6 時 間 )</b></span>	
<b>学 習 内 容</b> ・ 曲 想 と 音 楽 の 構 造 な ど と の か か わ り ( 知 ・ 技 ) ・ 音 色 や 歌 声 へ の 意 識 ( 知 ・ 技 ) ・ 曲 想 を 感 じ 取 っ て 表 現 を 工 夫 す る こ と ( 思 ) ・ 協 働 し て 表 現 す る 楽 し さ ( 態 )	
<input type="checkbox"/> 曲 想 を 感 じ 取 っ て 器 楽 表 現 を 工 夫 す る ( 3 M )	・ 今日 から 「か ぼ ち ゃ」 と い う 曲 を す る の だ ね 。 ま ず は 歌 っ て み よ う 。 こ れ に 、 リ ズ ム を 合 わ せ る の か 。 「よ に ん」 か ら リ ズ ム が 変 わ る ね 。 気 を 付 け よ う 。 リ ズ ム 打 ち が で き る よ う に な っ た よ 。 今 度 は 、 大 き な か ぼ ち ゃ を 音 で 表 す の だ ね 。 ど の 音 が 合 う か 、 グ ル ー プ で 考 え よ う 。 大 き な 音 が 出 る 楽 器 は 、 タ ン ブ リ ン く ら い し か な い よ 。 も っ と 大 き な 音 が 出 せ る 楽 器 は な い か な 。 先 生 が 、 身 の 回 り の も の を 楽 器 に し て よ い と 言 っ て く れ た よ 。 椅 子 を マ レ ッ ト で 叩 い た ら 、 小 太 鼓 み た い に な る ね 。 最 初 は 小 さ な 音 で 、 人 数 が 多 く な っ た ら 音 を 大 き く し て い く の は ど う か な 。 う ん 、 い い 感 じ だ ね 。 C さ ん の 班 は 、 楽 器 を 増 や し て い く の か 。 で も 、 四 人 し か い な い か ら 困 っ て い る の だ っ て 。 両 手 に 持 っ と い う 考 え 方 も あ る ね 。 「よ に ん」 ま で は 一 人 づ つ 音 を 出 し て 、 「ご に ん」 か ら 音 を 重 ね る 方 法 も あ る の か 。 面 白 そ う 。 み ん な で や っ て み よ う 。 や っ た 。 だ ん だ ん 人 数 が 増 え て い く 感 じ が 表 せ た よ 。
<input type="checkbox"/> イ メ ー ジ に 合 う よ う に 、 器 楽 表 現 を 工 夫 す る ①	・ 歌 詞 の 「お お き な か ぼ ち ゃ」 の 部 分 を 変 え て 、 グ ル ー プ で 演 奏 す る の だ っ て 。 楽 し そ う 。 「か わ い い か ぼ ち ゃ」 は ど う か な 。 か わ い い 音 を 見 つ け よ う 。 ト ラ イ ア ン グ ル や す ず が 合 う と 思 う よ 。 他 に は 、 ど ん な 楽 器 が 合 う か 試 し

(3M)

□ イメージに合うように、器楽表現を工夫する②

(3M)

□ グループ発表をする

(3M)

□ 曲想を感じ取って歌唱表現を工夫する① (3M)

□ 曲想を感じ取って歌唱表現を工夫する② (3M)

てみよう。カスタネットの、カチカチという音もいいね。マラカスも小さな音でかわいいよ。よし、歌に合わせてみよう。前の人の音を聞いておかないと、出遅れてしまうから気を付けて。今度はできたね。かわいい音をもっと見つけていこう。この音もよいね。よし、使う楽器は決まったよ。

・ 次の時間にグループで発表するのだね。友だちの演奏を聴いて、どんなかぼちゃかを当てるのか。かわいいかぼちゃが伝わるように練習しよう。大体できるようになったから、録音して聴いてみよう。もっと音を小さくした方がよいと思うよ。音の出し方に気を付けて、もう一度やろう。うん、かわいい感じになったね。人数が増える様子も表したいね。大きなかぼちゃの時は、だんだん音を重ねていったね。それもやってみよう。ちゃんとできたか聴いてみるよ。運べないくらい、かわいいかぼちゃがたくさんできた感じになったね。これで、みんなに伝わるかな。

・ グループ発表だ。みんな、どんなかぼちゃを演奏するのか楽しみだな。このグループは、楽器を力強く叩いていたね。かたいかぼちゃを表したのか。確かに、皮が分厚いかぼちゃの感じがしたよ。面白いな。今度は僕たちの発表だ。音が小さかったから、小さいかぼちゃだと思ったのか。高い音だったから、きれいなかぼちゃだと思ったのだから。なるほど。僕たちは、かわいいかぼちゃを表すために、かわいい音の楽器を使って音を小さくしたよ。みんなの答えは違ったけど、選んだ理由が伝わったから嬉しいな。同じ楽器を使っても、演奏の仕方や組み合わせによって、かぼちゃのイメージが変わるね。面白いな。

・ 今日からは「虫のこえ」を歌うのだね。これまで、曲に合うように楽器で工夫してきたけど、歌い方でも工夫できるかな。この曲は幼稚園でも歌ったね。まずは、みんなで歌ってみよう。いろいろな虫が出てきて、楽しい曲だよ。歌詞にある虫の鳴き声を、虫らしく歌ったらどうかな。鳴き真似ではなくて、きれいな感じが表れるように歌いたいな。本物の虫の音が聴けるのだね。マツムシは、本当にチンチロリンと聞こえるよ。かわいいね。かわいく歌うためにどうすればよいか、グループで考えてみよう。「チンチロリン」を小さく歌って録音してみよう。かわいい感じがするね。弾むように歌ったらどうかな。さっきよりかわいい感じになったね。クツワムシは、歌う声よりしゃべる声で歌ったらよさそうだよ。うん、ガチャガチャした感じになっているね。Cさんのグループは、スズムシのリーンリンを、少し伸ばすように歌ったのがよいね。他の虫の声の歌い方も考えよう。

・ この時間の最後には、グループで発表をするのだね。虫の鳴き声だけでなく、他の歌詞の歌い方も考えるのか。難しいからみんなで考えたいな。「ああおもしろい」のところを、面白そうに歌いたいね。気持ちが伝わるように、盛り上げて歌ったらどうかな。音も高くなっているから、ここを一番大きく歌おう。グループに分かれて練習するよ。「ああおもしろい」のところを大きく歌って、聴いてみよう。もっと面白そうに、笑顔で歌ってみよう。よい感じだね。最初から歌うよ。「スイッチョン」のところがバラバラだよ。楽譜を見ると「スーイッチョン」となっているよ。リズムに気を付けて、もう一度歌ってみるよ。今度は合ったね。さあ、発表だ。どのグループも、虫の鳴き声を工夫して歌っているね。自分たちで表現を工夫するのは楽しかったよ。これからも、曲に合うように、表現を工夫していきたいな。